

新規事業採択時評価結果（平成20年度新規事業化予定箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業の概要

事業名	一般国道101号追良瀬Ⅱ期バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	青森県
起終点	自：青森県西津軽郡深浦町追良瀬 至：青森県西津軽郡深浦町広戸	延長	3.6 km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道101号は、青森県青森市を起点とし秋田県秋田市を結ぶ延長210kmの主要幹線道路であり、両県日本海沿岸部の住民生活、社会経済活動を支える唯一の路線である。</p> <p>当バイパスは追良瀬地区の隘路区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とした延長3.6kmの道路改築事業である。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>当バイパスは追良瀬地区の幅員狭小、線形不良、急勾配の隘路区間を解消するとともに、法面防災点検危険箇所および特殊通行規制区間をバイパスとすることにより、安全で円滑な交通の確保および走行性を向上させ、幹線道路としての機能確保を図るものである。</p>					
全体事業費	40億円	計画交通量	4,100台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

秋田・青森県を結ぶ国道101号は日本海に沿って走る大動脈として産業・経済や観光に必要な役割を担っていると同時に沿線住民の唯一の生活路線であるが、近年、世界自然遺産「白神山地」に県内外より観光客が増え交通量が増大傾向にあるにもかかわらず、本路線は狭隘区間や危険なカーブが随所に見受けられる現状であることから、これらの早期解消について「国道101号整備促進期成同盟会」から要望を受けている。（平成18年10月23日）

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.4	総費用：35億円 （事業費：32億円 維持管理費：3.9億円）	総便益：48億円 （走行時間短縮便益：47億円 走行経費減少便益：-0.26億円 交通事故減少便益：1.3億円）	基準年：平成19年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.3 (交通量 -10%)	B/C=1.5 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=1.2 (事業費 +10%)	B/C=1.5 (事業費 -10%)		
		事業期間変動	B/C=1.3 (事業期間 +2年間)	B/C=1.4 (事業期間 -2年間)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	注目すべき影響はない。 【渋滞損失時間の改善】 【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】 【渋滞度曲線】 【その他の特徴】		
		事故対策	-	注目すべき影響はない。 【死傷事故率】 (死傷事故率比（県内平均比）) (事故率曲線における位置：) 【その他の特徴】		
	歩行空間	○	現道は通学路であるにもかかわらず歩道未整備であり、バイパスへの通過交通転換により、現道を利用する歩行者の安全が確保される。			
	社会全体への影響	住民生活	○	深浦町から津軽地方生活圏中心都市である五所川原市までのアクセスが向上する。 (深浦町～五所川原市 81分⇒78分)		
		地域経済	○	深浦町の主産品であるトマトの出荷時間短縮および荷傷み被害が改善される。 (深浦町野菜集出荷施設→東北縦貫道浪岡IC 96分⇒93分)		
		災害	◎	防災危険箇所に対する代替道路確保（現道には、防災点検要対策箇所が集中しており、この区間を回避するバイパスとなる・・・要対策箇所6箇所→0箇所）		
環境		-	注目すべき影響はない。			
地域社会	○	主要な観光地等へのアクセス向上 世界遺産「白神山地」（入込数88万人）、津軽国定公園（入込数122万人）へのアクセス向上				
事業実施環境	○	国道101号のうち青森県五所川原市～秋田県能代市までは「西津軽能代沿岸道路」として、地域高規格道路の候補路線となっている。				

採択の理由

費用対便益比が、1.4と便益が費用を上回っていることから事業採択の前提条件が確認できる。また、線形隘路区間の改善により、災害危険箇所の回避、救急医療施設への搬送など改善が見込まれ、幹線道路としての機能が確保できる当該事業の整備の必要性・社会全体への効果は高いと判断できる。以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。